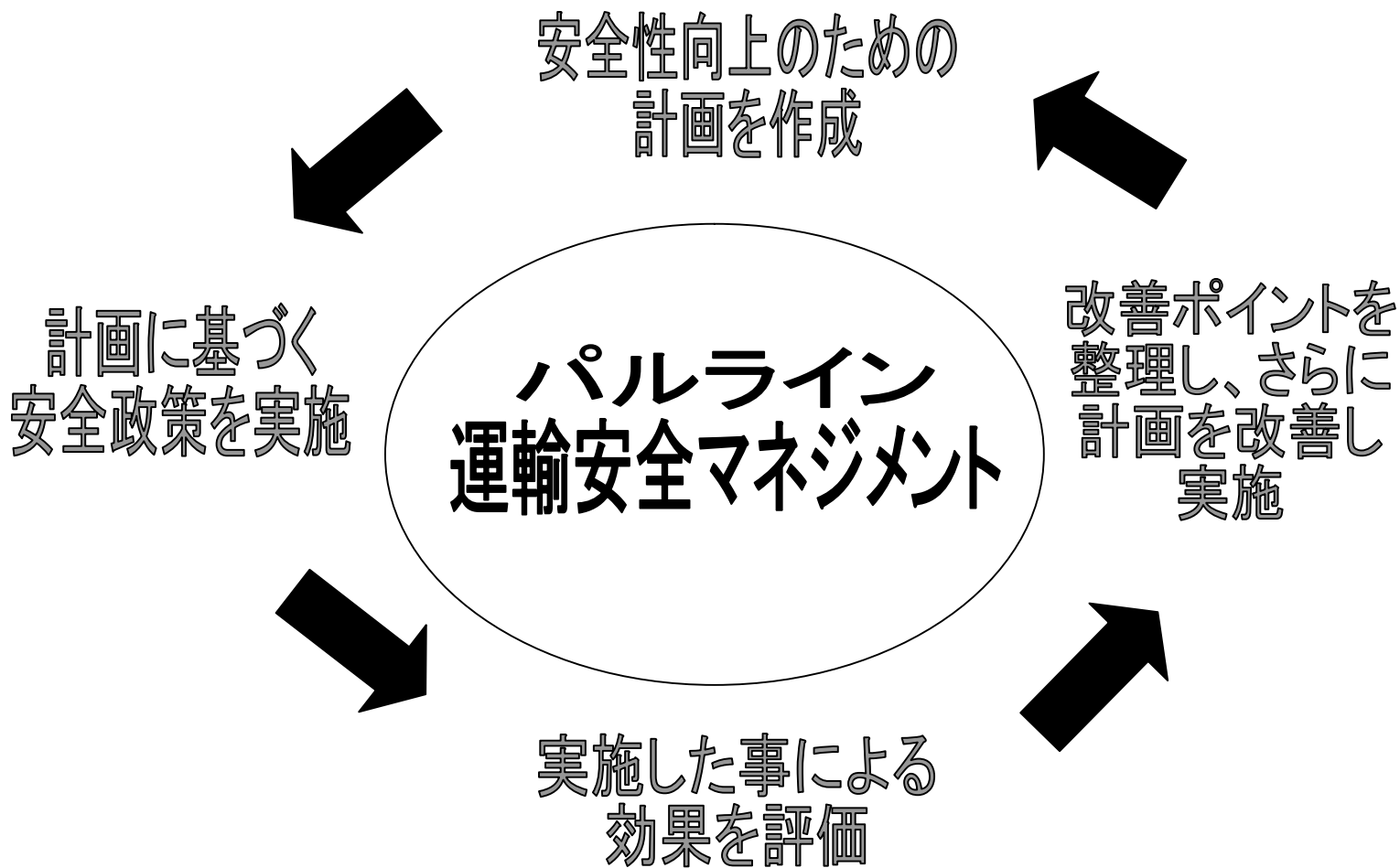


2018年運輸マネジメント(計画、実施、評価、改善の流れ)



① 新人の事故削減を目指します。(新人の事故件数 13 件 ⇒ 6 件以内)

- 新人に対し定期的な同乗指導を実施します。
- 新人研修で実施している実技研修を過去の事故事例を教訓に安全確認を重点的に実施します。
- 高校新卒者に対しては、下記 2 点を指導します。
  - ・営業所に出向き、出張座学研修を行います。(トラック特性を重点的に行います。)
  - ・見極めに関しては営業所と統括課との 2 段階で実施します。また、独り立ち 3 ヶ月後の確認同乗を実施します。

② 安全運転支援機器を使用しエコドライブの推進、安全運転の推進を行ないます。

- 生活物流の全ドライバーを対象に、1 週間×2 回(上期・下期) 診断を行ない、診断結果をフィードバックし、個々の運転の癖を修正するとともに、エコドライブ運転も推進します。

③ 現場パトロールを強化します。

- 3 ヶ月に 1 回、営業所を巡回しルールの遵守状況を確認します。

- 現場パトロールは写真で状況報告を行い、わかりやすく共有して指導に活用します。

**④ 事業所点検を実施し法令順守体制を維持継続します。**

- 3ヶ月に1回、全て抜き打ちで点検を実施し常に法令遵守運営が出来ている状態を目指します。

**⑤ 指導者の育成に力を入れます。**

- 運行管理補助者(主任、社員)を各事業所に何い座学講習を実施していきます。
- 主任、副主任同乗を行い指導者の目線合わせを行います。
- 月次会議では、各課の指導員が課題を抽出し課全体としての共通の取り組み内容を設定します。

**⑥ 社員が率先して参加する安全風土を強化します。**

- 毎月第一週目を全社一斉「事故・労災0の週」と定め、営業所の社員から意見を募り注意する重点項目を定め、全社員が意識した運転をする仕組みを構築します。
- 安全活動ポイント制度を導入し、社員参加型の取り組みを継続します。
- 社員が主役となり日ごろの安全運転技術を競えるドライバーズコンテストを開催します。
- 標識テストなど交通法規に関する情報を提示し、違反に対する意識向上を目指します。
- 定期的に営業所へ赴き、社員と意見交換を行い事故削減に努めます。

**⑦ 過去事例を活かします。**

- 過去の事例を風化しない仕組みを構築し同様の案件が発生しないよう指導します。
- 自転車の事故事例などKYT教育で自転車との接触事故0を目指します。

**⑧ 施設賠償事故防止に向けた教育を強化します。**

- 施設賠償事故発生時の作業手順や動作の検証を行います。
- 新人研修時、月次の乗務員教育の際に台車の扱い方を確認、事故事例を共有します。
- 経験年数や状況など過去の事例から発生しやすい傾向など無いか研究します。

**⑨ 台車運用ルールを見直します。**

- 施設賠償、荷崩れ防止を強化する為、全台車にバンド取り付けを実施します。

以 上